

平成30年度「びわ湖の日」の取組について

1 これまでの「びわ湖の日」の取組状況について

びわ湖の日は、その概ね前後1週間に県下全域で10万人以上が環境美化活動を行うなど、琵琶湖への思いをみんなで共有し、その総合保全に取り組む象徴的な日となっている。

びわ湖の日30周年(平成23年度)を契機に、「琵琶湖をきれいにする」に加えて、「豊かな琵琶湖を取り戻す」、「琵琶湖にもっと関わる」をびわ湖の日の取組の3本柱とし、市町をはじめ民間企業・大学等と連携した取組を進めている。

【主な取組】

琵琶湖をきれいにしよう

▶ びわ湖を美しくする運動

豊かな琵琶湖を取り戻そう

▶ 侵略的外来水生植物の駆除

▶ 外来魚駆除釣り大会

琵琶湖にもっと関わろう

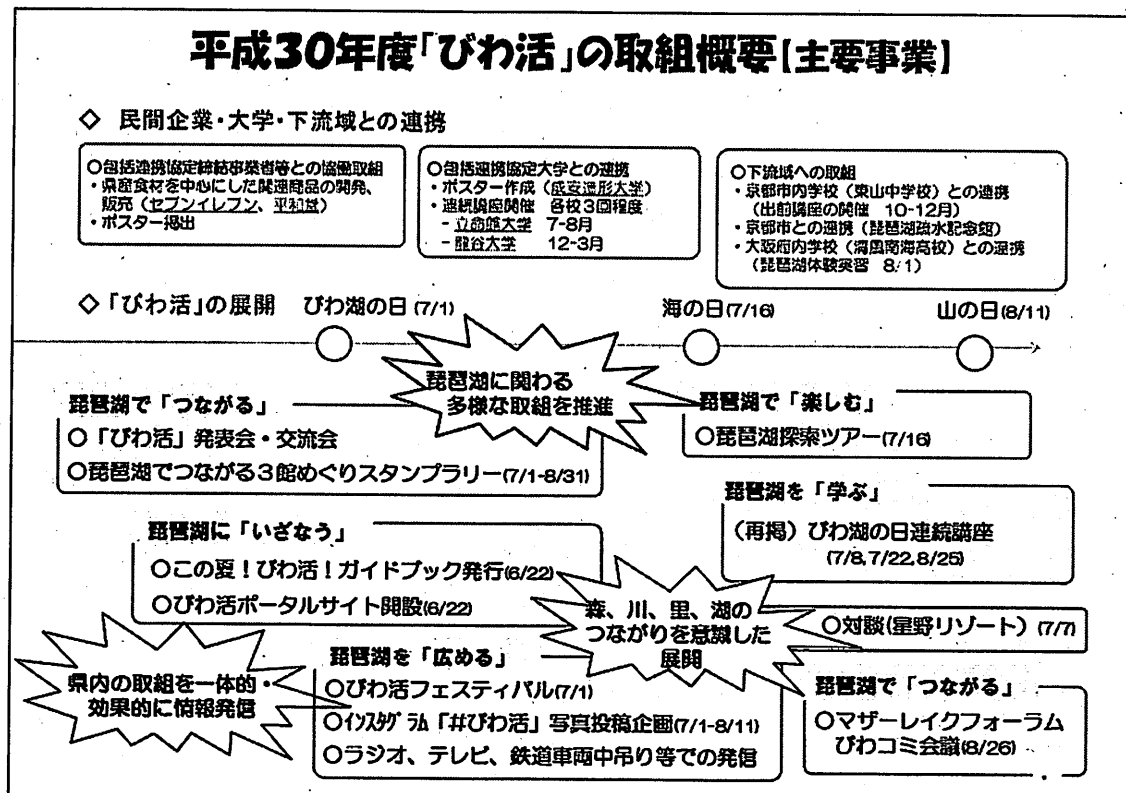
▶ 琵琶湖の価値やびわ湖の日の意義を発信『広める』

▶ 身近なこと『食べる』から琵琶湖に関心をもつ企画

▶ 琵琶湖や暮らしとの関わりを『学ぶ』企画

2 平成30年度「びわ湖の日」のさらなる展開について

県民のライフスタイルは多様化し、琵琶湖との関わり方やその時間は一人ひとり異なる。誰もが自分に合った方法で、より多くの方に琵琶湖に関わっていただけるよう、7月1日「びわ湖の日」を起点に概ね8月11日「山の日」までを琵琶湖に関わる重点期間とし、「この夏！びわ活！」をキャッチフレーズに、多様な主体と連携して琵琶湖に関わる体験、活動、場所等にいざなうための情報を一体的かつ効果的に発信をする。



(補足)「びわ活」とは「びわ湖の日」の取組を一層盛り上げていくため、琵琶湖の保全再生や暮らしと湖の関わりとの再生に係る取組や活動を総称したキーワード

【主な取組】

○情報誌「この夏！びわ活！ガイドブック」の発行 …別冊参照

- ・琵琶湖に関わる体験等をまとめた情報誌を17万部発行。
県内小中学校(約13.8万人)に配付するほか、図書館、県・市町公的施設、琵琶湖博物館、大型商業施設、ローソン(一部店舗)で配架。
- ・びわ湖の日学習を進めるための教材、家庭での実践に使えるよう湖魚料理のレシピ、クーポン、寄附付き商品、ボランティア情報を掲載。

○「びわ活」発表会・交流会の開催(6月26日 計68名参加)

- ・発表会は、県および大学2校(成安造形大学、立命館大学)企業3社(㈱セブンイレブン・ジャパン、㈱平和堂、琵琶湖汽船㈱)、6つの活動団体等から本年の取組を発表。
- ・交流会は、龍谷大学藤岡章子教授から「ソーシャル志向の価値共創マーケティング」をテーマにした講演後、参加者で琵琶湖の価値の共創等について意見交換。

○多様なメディア発信

- ・ラジオ(エフエム滋賀)びわ活応援 week 6月25日～6月29日
- ・びわ湖放送での「びわ活」15秒CM 6月25日～7月1日 14回
- ・JR西日本(快速・新快速)車両吊り広告(関西一円2,250車両)
6月29日～7月1日 3日間

○下流域との連携

- ・京都市の琵琶湖疏水記念館、大津市歴史博物館、琵琶湖博物館が連携し3館を巡るスタンプラリーを実施
7月1日～8月31日

【事業の詳細】(参考)

(1) 琵琶湖に「いざなう」「知る」 6月22日～

○情報誌「この夏！びわ活！ガイドブック2018」

- ・琵琶湖に関わる体験等をまとめた情報誌を17万部発行。
- ・びわ湖の日学習の教材、家庭での実践に使えるよう湖魚料理のレシピ、クーポン、寄附付き商品、ボランティア情報を掲載。
- ・県内小中学校(約13.8万人)に配布。図書館、県・市町公的施設、琵琶湖博物館、大型商業施設、ローソン(一部店舗)で配架。



○びわ活に関するポータルサイト開設

- ・スマートフォン等で見やすいレイアウト
- ・「びわ湖の日」の意義や、情報誌に掲載する各種「びわ活」等をわかりやすく発信。

○びわ湖の日啓発ポスター作成

- ・成安造形大学との連携で啓発ポスターを2,500部作成。
- ・県内学校(小中高)・大学、県市町公的施設、コンビニ(県内セブンイレブン、ローソン全店舗)、大型商業施設(平和堂イオンの一部)、郵便局等に掲出依頼。



(2) 琵琶湖で「つながる」

- 「びわ活」発表会および交流会開催 6月26日 場所：ピアザ淡海 計68名参加
・発表会は、県および大学2校（成安造形大学、立命館大学）企業3社（㈱ビソール、ソ・ジャパン、㈱平和堂、琵琶湖汽船㈱）、6つの活動団体等から本年の取組を発表。
・交流会は、龍谷大学藤岡章子教授から「ソーシャル志向の価値共創マーケティング」をテーマにした講演後、参加者で琵琶湖の価値の共創等について意見交換。

(3) 琵琶湖を「広める」

- びわ活フェスティバル 7月1日 場所：イオンモール草津
・びわ湖の日のキックオフとして、びわ湖の日の認知度向上およびより多くの方に琵琶湖に関わっていただくためイベントを開催。イベントでは、琵琶湖にちなんだクイズ、お笑いライブの実施やびわ活情報などの発信を通じ、びわ活を呼びかけた。
・同日同場所で実施される民間イベント（イオンモール草津10周年イベント「ブルーアクション」および野洲のおっさんのゴールイベント）と連携し、終日びわ活を盛り上げた。

○多様なメディア発信

《ラジオ》

- ・e-radio びわ活 10秒CM 6月11日～8月10日
びわ活参加団体(40団体程度)のPRCMを適宜オンエア。
- ・e-radio びわ活応援 week 6月25日～6月29日
「びわ活応援 week」と題して、リスナーから「この夏、あなたのびわ活教えてください」のテーマでメッセージを募集。
また、e-radio レポーターが5日間にわたり、びわ活の取組等をインタビュー形式で紹介(11か所)。参加したリスナー等に限定ステッカーを配布(1,500枚)。

《テレビ》

- ・びわ湖放送での「びわ活」PRCM 6月25日～7月1日 14回
同内容をYouTubeでも配信 6月25日～8月11日

《鉄道》

- ・JR西日本鉄道での車両吊り広告 6月29日～7月1日 3日間
びわ活ガイドブックの表紙を基調とした広告を京阪神エリアで掲出。2,250車両

○人と湖の関わり等写真の投稿呼びかけ、企画展示

- ・7月1日～8月11日の間、「びわ活」写真（琵琶湖との関わりなど）を「#びわ活」をつけてInstagramへの投稿いただくよう呼びかける。観光キャンペーンと連携し、琵琶湖保全再生課・観光交流局の双方が、「#びわ活」「#虹たび」両方をつけての写真投稿を広報。
- ・優秀作品は、10月1～8日に**ビバシティ彦根**、11月25～30日に**ここ滋賀**で展示予定。

(4) 琵琶湖に「学ぶ」「楽しむ」

- 琵琶湖探索ツアー 7月16日 60名 対象：県内外の学生および保護者
・「この夏！びわ活！琵琶湖探索ツアー～琵琶湖をめぐり、感じ、学ぶ～」
環境学習船（megumi）での湖上体感・琵琶湖学習、「沖島」での「地引き網漁」体験、湖魚料理中心の昼食（負担1200円）、「西の湖」での水郷巡り・ヨシ学習を行う。
琵琶湖の価値・現状について理解を促進する。

- 立命館大学との連携「びわ湖の日連続講座」 7月～8月 3回
琵琶湖の多様な価値を様々な視点から講義を聞き、琵琶湖と私たちのつながり、琵琶湖とともに生きていくために何ができるかを考える。 各回 100名
7月8日「江戸時代の琵琶湖を知る」
立命館大学食マネジメント学部 鎌谷かおる 准教授
7月22日「琵琶湖保全からエコツーリズムを考える」
立命館大学経済学部 峯俊智穂 准教授
8月25日「琵琶湖の魚を守ることと活かすこと」
滋賀県水産試験場 酒井 明久 主任専門員

(5) 下流域との連携

- 琵琶湖でつながる3館めぐりスタンプラリー 7月1日～8月31日
琵琶湖疏水通船の復活を契機に、琵琶湖疏水記念館、大津市歴史博物館、琵琶湖博物館が連携し、人と湖（水）の関わりや人と人が交流する中で生まれた文化など、より多くの人に多様な琵琶湖の価値や琵琶湖への関心・理解を深めることを目的にスタンプラリーを実施する。

- 吹田市立少年自然の家との連携
吹田市内の小学5年生が自然体験をするための宿泊施設
図書コーナーで「琵琶湖ハンドブック」・「びわ湖を学ぼう」の閲覧できる。
びわ活企画として、7月11日に一般向け体験事業(20名)を実施いただく。

- 私立東山中学校（京都市） 10月～12月 3回
琵琶湖疏水のある学校1年生対象に講座・実習 200名
内容 琵琶湖や水源・森林の価値、琵琶湖と外来魚（琵琶湖博物館見学・実習含む）、世界農業遺産とゆりかご水田（ゆりかご水田米試食あり）
※びわ活情報誌全生徒・教員へ配布 約530部配布

- 私立清風南海高校（大阪府高石市）
SGH(文部科学省指定スーパーグローバルハイスクール)の1年生対象
出前講座 5月22日 75名 県内フィールドワーク(高島市内)8月1日 20名

- 龍谷大学との連携「びわ湖の日滋賀県提携龍谷講座 in 大阪」 12月～3月 4回
琵琶湖と人との関わりをテーマに講座開催 梅田校 各回 50名

- 「びわ湖の日」の周知・発信
(再)JR西日本鉄道での車両吊り広告 6月29日～7月1日 3日間
中日本高速道路管内SA・PAで「びわ湖の日」啓発ポスターを電子掲示